

## 第3学年 体育科学習指導案

令和4年5月13日(金)2校時

児童数 37人

指導者

### 1 単元名 「 マット運動 」

#### 2 運動の特性

##### (1) 一般的特性

マットの上で体を支持したり回ったりして、元の状態に戻る(立ち上がる)までが面白い運動である。

##### (2) 児童から見た特性

- ・マット運動の学習に対して80%の児童が「好き」「まあまあ好き」と答えている。児童の関心は、できる技を繰り返し楽しんだり、新しい技に挑戦したりすることにある。
- ・マット運動の学習に対して20%の児童が「あまり好きではない」「好きではない」と答えている。その理由として、運動が好きではないことやマット運動に苦手意識を持っているといったことが挙げられた。
- ・2年生までに、「前転」「開脚前転」「後転」「開脚後転」「伸膝後転」「側方倒立回転」を紹介されている。

#### 3 運動の学び方

- ・2年生までに、スパイラル型の学習を経験しており、めあて1とめあて2の意味を理解して活動している。
- ・2年生までに、学習カードを使う経験をしている。めあてはその時間に取り組む技の名前を書き、ふり返りには楽しかったことやできるようになったこと、友だちの頑張りや技についての気づきを書いている。
- ・場の設定については、めあて1とめあて2で場を作り替える経験をしている。
- ・タブレットについては、体育の学習での使用経験はない。

#### 4 教師の授業への意図

- ・できる技を繰り返し楽しんだり、新しい技に挑戦したりしたい児童が多いため単元をスパイラル型で設定し、1間の中でどちらの楽しみ方も味わえるようにする。
- ・マット運動に苦手意識を持っている児童がいることから、準備運動の段階で十分に運動遊びに取り組みせ、運動感覚を養うとともにマット運動の心地よさを味わわせるようにする。また、教師が意図的に関わる機会を増やし、成功体験を積み重ねることでマット運動に対して主体的に取り組めるようにする。
- ・1時間の活動に明確なめあてを持って取り組めるように、単元の始めに、6時間でできるようになりたい技を決め、学習カードの中の技の系統表に印をつけさせる。系統表の中の印を付けた技の中からめあて2で取り組む技を決めるようにする。その際に、どのように頑張るのかを記述できるスペースを設けることで、児童の活動が課題意識と解決の手立てを持ったものに近づくとともに、教師がそれぞれの課題を把握し、適切な支援ができるようにする。
- ・ふり返りは、めあて2で取り組んだ技が同じ児童で集まって、技の難しかったところとどうやったらできそうかというポイントを考えさせ、ホワイトボードにまとめる。話し合わせることで思考が整理され、課題解決のヒントになったり、新たな視点に気が付いたりすることができる。また、ホワイトボードに書かれたことを次時以降にも掲示して置き、クラスの成果として残しておく。

- ・活動の場については、始めから工夫された練習の場も複数提示する。めあて1の「できる技を繰り返して楽しむ」の段階でも工夫された練習の場があることで2つの利点があると考え。1つ目は、既にできる技であったとしても、場を変更することで技の難易度が上がり、より高い完成度を目指したい児童は意欲的な活動になると考える。2つ目は、工夫された場の特性に触れさせておくことで、めあて2の活動の際に、自分のめあてに応じた練習の場の選択がしやすくなるを考える。
- ・技の形態図と合わせて、その技ができるようになるまでのスモールステップも掲示物として提示することで、児童が主体的に新しい技の獲得ができるようにする。

## 5 評価規準

	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元に盛り込む評価規準	マット運動の行い方を知っている。	マット運動の回転系や巧技系の基本的な技を身につけている。	自分の力に合っためあてを持ち、技ができるようになるための運動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。	マット運動の楽しさや喜びに触れることができるように、進んで取り組むとともに、きまりを守り、運動する場や器械・器具の安全を確かめている
学習活動に即した評価規準	①回転系や巧技系の基本的な技の動き方や技のポイントを知っている。 ②回転系や巧技系の基本的な技の練習の仕方を知っている。	③自分の力にあった回転系や巧技系の基本的な技ができる。	①自分の力に合った課題を見付け、その課題解決のための活動を選んでいる。 ②課題解決のために考えたことを友達に伝えている。	①器械・器具の使い方や運動を行う際の決まりを守り、基本的な技に進んで取り組もうとしている。 ②運動する場や器械・器具の使い方などの安全を確かめている。

## 6 学習の道すじと評価計画(全6時間)

	1	2	3(本時)	4	5	6
	オリエンテーション	めあて1:今できる技を繰り返して楽しもう				
	技調べ	めあて2:もう少しできそうな技に挑戦して楽しもう				
知・技		①			②	③
思・判・表			①	①		②
主体的		②		①		

7 本時について(3/6)

(1)目標

自分のめあてに合った練習の場や練習の方法を工夫して取り組むことができる。【思考力、判断力、表現力等】

(2)展開

過程	学習活動	指導○・評価◇
はじめ	1 場の準備を行い、準備運動をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>【準備運動】</b>                          ・ゆりかご・かえるの足うち                          ・アンテナ・鉛筆ころがり・川跳び                     </div>	○安全に活動できる場になっているかを確認するように声掛けをする。 ○主運動とのつながりを意識できるような声掛けをする。
なか	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                         めあて1 今できる技を繰り返して楽しむ。                     </div>	○マット運動の面白さを確認し、元の状態に戻って2秒静止することを確認する。 ○安全面に関わるルールを確認する。 ・場の安全を確認すること ・着手は「もみじの手」を意識すること ○様々な場を準備しておく。 ・楽しみ方を変えたり、技のレベルをあげたりすることができる。 ・工夫された場の特性を感じることで、めあて2の活動の際に、自分のめあてにあった場を選択できるようにする。
	2 めあて1の活動	
	3 めあて2の活動	○今日取り組む技を確認させる。 ○児童のふり返りから、全体で共有したい視点や気持ちを伝える。 ○できた・できないの判断をきちんとさせるために着地を意識するように声掛けをする。 ○同じ技に取り組んだ児童で集まって技の難しかったところや技のポイントについて話し合い、ホワイトボードにまとめさせる。
	4 ふり返りをする。	
	5 片づけをする。	